

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270600457		
法人名	社会福祉法人 さゆり会		
事業所名	グループホーム大津		
所在地	長崎県五島市下大津町724番地7		
自己評価作成日	平成21年12月28日	評価結果市町村受理日	平成22年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事には積極的に参加するようにしており、利用者の希望を聞きながら無理な参加にならないようにしている。食事は利用者の方に好みのものを聞いたりして、メニューを考えながら料理するようにしている。入浴に関しては毎日入浴していただけるように、午前中から入浴を行なうようにしており、利用者の方にはお風呂に入るのを待っている方もおられる。排泄に関してはチェック表をつけており、便秘にならないように注意し、排尿がない方には、トイレの声をかけを行ったり、水分摂取に心がけるようにしている。看護師や理学療法士の方に来ていただいております。医療面やリハビリに力を入れており、健康で元気に生活していただけるように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設7年目を迎える「グループホーム大津」は、住宅地の地域にも溶け込んできている。地域の方から野菜を頂いたり、ホームの行事にも子ども達が参加してくれるようになった。リビングの畳は、子ども達や地域のボランティアの方々の「踊りの舞台」となっているが、大活躍の量を残しながらも、21年夏、その畳の一部がフローリングに改修された。職員の会議の場としても活用できているが、フローリングの場所が日当たりも良いことから、車いすのままご利用者が自分で移動し、一人でくつろげる空間にもなっている。もう一つのご利用者の楽しみでもある「ホームの食事」は、地域の方から頂いた卵や小麦粉、ホームの畑で収穫した大根やイモ等、旬の食材を使った美味しい料理が出されている。それぞれのご利用者はエプロンをして、調理の下ごしらえや食器洗い等も役割の一つとなっている方もおられ、職員とともに「うどん」を打って食べたり、ご家族と一緒に夕食を楽しめることもある。家族会の交流も活発で、一緒に出かける機会を設け、食事や花見を楽しんでいる。この春、長年、管理者を務めてきた施設長が異動になった。今まで、共にホームを作ってきた職員が後を引き継いでいくが、施設長には、今後も「畑作り」等に関わって頂ける予定になっており、職員もご利用者も安心されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各職員出勤時に理念を読み上げるようにしており理念の共有に努め実践についても利用者のペースで生活して頂き、自己決定が出来るように支援し、無理のないように努めている。各職員理念を理解し、利用者の方が穏やかな生活ができるように援助に努めている。	「おはようございます」と明るい気分で一日が始まり「おやすみなさい」と安心して寝ることができる生活がしたい」と、ホーム独自の理念を掲げており、職員は、それぞれのご利用者が持つておられる生活のペースに寄り添いながら、日々支援に取り組んでいる。出勤時以外にも、会議の場で職員全員で理念を唱和し、確認し合っている。	今後も引き続き、ご利用者が安心してホームでの生活を送って頂けるよう、職員間で理念の理解を深め、理念の言葉にある“安心できる”ための言動などを確認していきたいと考えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの側を通られる方には挨拶を行なうように心がけており、近所の方とは仲良く接している。野菜を頂いたり、こちらから手作りのおやつを持って行くなど交流に努めている。近所の障害児の方と一緒にヘルパーさんがよく遊びに来られ利用者の方も仲良く接している。ホームで飼っている犬にも近所の方はお世話をしてくれているようです。	ホームに地域の保育園児が来訪し、踊りの先生と子供たちによる踊りの披露をして下さった。21年は、近所の子供達がホームのクリスマス会に参加して下さる等、年々、地域との交流を深めている。ご利用者は、アイアンマンやタヤマソンの応援、つばき祭りの見物等の地域行事を楽しまれており、“チャソコ”のホーム訪問は、毎年恒例の行事となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職場体験やボランティアの受け入れを行っており、認知症の方接し、体験する事で認知症の人の理解と支援に繋がるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に1回行うようにしており、ホームの活動報告や事故報告、ひやり・はつと、外部評価、避難訓練などの報告を行っている。その他地域の行事や、地域のことに関する話や、介護保険制度のことなど話し合いを行っている。会議をすることで民生委員さんや町内会長さんへのホームの出来事や利用者の状態、現状がみられる為、理解していただけているように思われる。会議の中での意見は取り入れて、サービス向上につながるようにしている。	ご家族や民生委員、市の職員に参加して頂きながら2ヶ月に1回開催している。会議を通して、ホームで起きたヒヤリハットの報告を行いご意見を頂いている。また、民生委員から地域の情報を提供して頂いたり、地域の高齢者の支援の在り方について相談を受けることもある。	今後は、ご家族へ、“運営推進会議の議事録”の配布を検討していく予定である。ホーム運営の改善に向けた話し合いの内容を、より多くのご家族に知って頂き、他のご家族からの意見も反映できる会議となっていくことを期待していきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険制度の変更時や提出物また運営推進会議の案内文書などは市の担当者へ持っていく渡すようにしており、協力関係を築けるようにしている。	市の担当者が運営推進会議に出席して頂けており、スプリンクラー設置の助成の申請や、介護保険制度の変更に伴う申請の相談にも快く対応して下さっている。また、ホームへ新型インフルエンザに関する情報を提供して頂く等、日頃からホーム運営に協力して頂ける関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するアンケートをとり、職員の意識と拘束に関する調査を行い、会議時に報告し、心理的な拘束に関するものについても改善に取り組んでいる。	法人には身体拘束廃止委員が設置されており、ホームからも1名出席している。ホームでは、職員の見守りによるケアを実践し、身体拘束は行っていない。平成21年4月に、職員全員へ心理的拘束についてのアンケートを実施し勉強会を行った。勉強会を通して、身体拘束への考えを確認し合い、理解を深め合った。	今後、職員同士で気付いたことを記録に残すことで、職員全員で気付きを共有し、心理的な身体拘束を含め、身体拘束を行わないケアの実践に取り組んでいきたいと考えておられる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を行い虐待防止について学んでいる。入居者の体に原因不明のアザがないか入浴時に身体の観察を行うことで、防止に繋げている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加した職員より研修報告などにより勉強している。また、法人で市の職員を招いての研修会を行ったりしている。必要とされる利用者もおらず活用するまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては入居前に説明し、利用者、家族に理解、納得いただけるように説明している。疑問点などは随時説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会など会話することにより、意見や要望などないか機会を設けている。	自宅訪問と2ヶ月に1回の家族会も続けており、直接、ご家族から意見を頂くようにしている。運営推進会議の場にも参加頂いているが、ホームの運営やご利用者に応じた支援方法についてのご要望等や意見については、職員間で話し合いながら検討され、改善に向けた対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	その都度意見を聞いたり、会議時に意見や提案を聞き、みんなで取り組むようにしている。	家族会やクリスマス会等ホーム行事の内容や、外食外出を提案する等、職員は日頃からホーム運営についての意見や提案を行っている。出された意見は会議を通して職員全員で検討しながら、随時ホームの運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は能力開発シートを作り、目標が達成できるように努めており、管理者は職員個々の努力や実績と一緒に勤務することで間近で見えは把握するように努めている。研修や勉強会を行うことで各自の向上心を持って働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で研修を行ったり、島内、外の研修にも参加するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会の親睦会や検討会に参加し交流を深めている。他の施設見学を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人の話を聞いたり、何か原因で不安がっているのか、要望は何なのか尋ねるようにし、不安な部分については改善に向けて職員で話し合い意識を統一し、支援するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に自宅訪問したり、ホームに来られた際に家族が困っていること、どのようにしたいか、要望などを聞くようしており、利用者が入居されてからも面会時や訪問時などに不安がないように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としていることを見極め、その必要とされているサービスは何かを探り、他のサービスについて考えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の手伝いや掃除、洗濯ものなど手伝っていただいております。職員と一緒に行動するように努めています。また、買い物や散歩など外出の機会を設けながら暮らしを共に支える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会を行うことにより一緒に食事したり、ゲームに参加したりしながら共に利用者を支えられる関係づくりに努めています。訪問時、面会時なども情報交換に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の方から行きたい場所を尋ねたりして、希望があればできるだけ実現できるように努めています。家族の方へはがきを出したり、電話を入れたりするように努めています。	ご利用者の馴染みの人や場所を、日々の会話の中などで知るように努めており、お歳暮やお中元等のお礼の電話ができるように支援をしたり、敬老会等の行事の時に、地元の馴染みの方と会話を楽しんで頂いている。知人が利用されている通所事業所へ出かけていく等の支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同作業やドライブみんなで一緒に行き、楽しく過ごしたり、利用者同士の間に職員が入ることにより孤立しないように努めている。時々トラブルがみられるが職員が間に入り注意しながら支えるように努めている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され退所された方にも見舞いに行ったり、亡くなられた後も交流するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との会話の中から言葉や表情から利用者の思いを汲み取るようにしており、気付いた点は記録に残し、職員間で情報の共有を行う為、会議のときなどに、利用者一人ひとりに対して検討している。	法人共通のアセスメント書式を使用している。入居前の生活歴や暮らしぶり、趣味活動、ご利用者の希望や生活へのご意向、ご利用者ができる事やできない事等を記録し、職員間で共有を図っている。入居された後も、ご家族との面談やご利用者との会話を通して、新たな希望や意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家庭訪問時に生活歴や暮らしぶりなど尋ねたり、生活環境を見せていただいたり、してどのように生活をしていたかを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活や過ごし方は業務の中で観察し、記録に残して、現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリング時に話し合ったり、ご家族が面会に来られた時にご意見がないか尋ねたり、本人にもどうしていきたいか話をきいて介護計画に反映できるようにしている。	計画作成担当者が作った原案を、会議の中で職員全員で検討し、計画を作り上げている。計画には、散歩や外出といったご利用者の希望や楽しみを組み入れ、主治医や法人の理学療法士の助言を頂きながら作成している。職員は、ご利用者の生活に沿った計画となるように、ご利用者のできる事、できそうな事を見つけ続けている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別に介護計画実行表や引継ぎ書、業務日誌に記録し、引継ぎ書を用いて、各職員に伝えるようにしている。また、ケース会議時に介護計画の見直しを行なうようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望(病院受診、外出希望など)や家族の要望には答えるようにしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	温泉や花見、レストランでの食事、ねぶた見学、マラソン見学など地域の行事には見学など参加するようしており、ドライブを行ったりして、楽しく暮らしていただけるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入所前からのかかりつけ病院を入所されてからも継続して、受診しており、受診の際も職員と一緒にホームでの健康状態を伝えている。異常が見られたときは、ホームの協力医師へ連絡し、往診していただいたり、対応を尋ねるようにしている。	ご利用者の体調の変化は、職員が細かに把握しており、必要に応じて、訪問看護師、ホームの協力医や主治医へ相談している。通院介助は職員が行っており、受診内容に変化がなかった時には、ご家族の訪問時に受診記録を読んで頂いており、体調の変化が見られた時は、随時ご家族へ電話で連絡を入れて報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1回来られ、利用者ごとに1週間の日々の記録を確認し、バイタル測定し、職員に尋ね体調の悪い方、皮膚の疾患の処置など行なってもらい、病院受診検討などの指示を頂、感染症などの対策についても指導していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院されたときは、見舞いに行き、体調、状態を医療関係者に尋ねるようになり、情報交換するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の入所前に家族と一緒にホームの「看取り」介護指針を十分に説明し、健康管理書(事前確認書)にて現在の意向を確認している。緊急時や終末期の際は、改めて意向を確認するようにしている。	ホームでは、ご利用者やご家族の希望に応じ、ご利用者の精神的ケアを中心とした「看取りの介護」を行っており、入居時に、ホーム独自の「看取りの指針」を説明し、同意を頂いている。週に1回訪問看護師の訪問の他、月に1、2回ホームの協力医の往診があり、必要時は夜間の往診にも対応して頂ける。ご利用者の状態の変化に応じて、ホームでの点滴投与等にも対応頂ける体制が整えられている。	ご家族からは、「最期はここで…」という意向が多く聞かれている。ご利用者の意向の把握ができていてもおられるが、今後も引き続き、ご利用者の意向の確認を行っていく予定である。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の職員を呼んで、緊急時の対応(心肺蘇生法)、応急手当の仕方など2年に1度の割合で全職員が受けるようしており、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っており、全職員参加していただいて、利用者の代役や不穩になられた方への対応する職員などに分けながら訓練を行っている。消防団とも連携を図り、避難誘導、消火訓練を行っている。	ご利用者と職員と地域の消防団員が参加し、年に2回、避難訓練を行っており、夜間想定も訓練もしている。地域の消防団と連携して避難訓練を行う事で、協力体制を整えられており、近隣の方も、非常時には協力頂ける関係はできている。ホームでは、炊き出しセット50食分や飲料水を準備している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホームの理念に沿って、利用者の自尊心や羞恥心など誇りやプライドを損ねないように努めている。言葉かけは利用者との関係を保つ上で重要であるため、常に注意し、心理的な拘束にならないように努めている。	職員全員で接遇の研修を受けている。ホームの理念に沿って、ご利用者の自尊心や羞恥心に配慮した支援を心がけており、排泄の誘導の声掛け等は、周囲へ配慮した声の大きさ等に努めている。日々の支援の中で気付いたことは、会議を通して職員全員で話し合い、改善への取り組みを続けている。	ご利用者の自尊心を損なわないような言葉かけや対応を、全職員ができるようにしていきたいと考えている。引き続き、職員間で話し合いを続けながら、“声かけ”のあり方、“ご利用者の思い”を考えていく場を作っていく予定である。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食べたいものを尋ねたりしながらメニューを考え提供したり、入浴の声かけも本人の意思決定できるように声かけを行なっている。お手伝いや作業なども同じで本人の希望を聞いて、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さん一人ひとりが自分のペースで暮らしており、穏やかに過ごされていると思います。お手伝いをされる方、作業をされる方、自室でゆっくりされる方リハビリを頑張る方各々過ごされております。利用者さんの行きたいところを尋ねたり、外へ行きたい方は一緒に散歩したりとその日、その人に合った支援を行なうように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日入浴されることで整髪を行い、洋服も着替えるため、出来るだけその人らしい身だしなみが出来るように支援しております。散髪はホームの職員が行っており、その人の希望を聞きながら行なっている。お化粧品も敬老会に行くときなどされております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に献立を考えたり、買い物へ行かれたり、調理の下ごしらえを手伝っていただいたりと職員と一緒に食事を作り、一緒に食べるようにしており、季節の材料使って、料理を作り、楽しく食事が出来るように努めている。	ご利用者の希望を取り入れながら、献立を作っている。地域の方から頂いた卵や小麦粉、ホームの畑で収穫した大根やイモ等の、旬の食材を使った料理が出されており、ホームでうどんを打って食べたり、ご家族と一緒に外食を楽しまれることもある。それぞれのご利用者は、調理の下ごしらえや食器洗い等にも取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分摂取量が分かるように記録をつけており、その人に合ったバランスを提供できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアのために毎食後のお茶によるうがいを行っていただいております。就寝前には入れ歯をはずしていただき、ポリドントなどで殺菌消毒を行っていただいております。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	
				次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録する事でパターンを理解し、早めの声かけにて自立にむけた支援を行なうように努めている。	全てのご利用者が、トイレでの排泄が行われている。必要に応じて、リハビリパンツやパッドを利用して頂く方もおられるが、日中はできるだけ使用せずに過ごして頂いている。排泄チェック表により、ご利用者毎の排泄パターンを把握し、早めの声かけを行うように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないように排泄チェック表に記録し、3日排便が無い方へは下剤を使用するようにしている。水分摂取量にも気をつけながら、毎日牛乳を飲んでいただいたり、運動を行なったりしながら一人ひとりに状態に応じた対応をするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日の入浴を楽しみにされている方もおり、午前午後と入浴できるようにしている。一人の職員で対応できない方には二人の職員で対応するようにしている。本人に声かけして、納得してから入っていただくようにしている。	自宅での入浴の状況や回数等を把握し、希望に応じた入浴支援が行われている。毎日、入浴される方も多く、職員と1対1の入浴を楽しまれている。お風呂を拒否される方には声かけを工夫し、安心して入浴頂けるように努めている。時には、温泉に行くこともあり、ご利用者の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室や畳の間にて昼寝をしたり、時には職員と一緒に横になることで安心されることもあります。利用者の好みに応じて、畳の間であったり、ソファであったりと各々がくつろげる場所を確保して、休息しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書には目を通しており、また、症状に変化があるときには、看護師に相談したり、職員間で話し合い医師に相談するようにしている。一人ひとりに薬ケースを用意し服薬のミスが無いように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各人が自分に来ることは、役割として理解しているようで、進んでお手伝いされる方を居られる。リハビリをされる方、作業をされる方など各々が出来る事を支援するようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族会などで一緒に出かける機会を設け、食事をしたり、花見を行なったりしながら楽しみを持てるようにしている。夏場は外へ出る機会も多いが冬場に来て外出の機会が減っている。新型インフルエンザの流行により、感染しないように控えている。	ご利用者は、日常的にホーム周辺の散歩を楽しまれており、桜やコスモスなどの季節のお花見外出や外食などにも出かけている。福江まつりや椿まつりの見物等、地域行事への外出も楽しまれている。また、ご利用者が以前利用されていた通所事業所へ遊びに行く等、それぞれのご利用者の希望に応じた外出支援も行われている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者からお願いされて好みのものを職員が買ってきたり、時には一緒に出かけて洋服など買い物をする事もある。その際は本人に支払いをしていただくようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自室に電話を取り付けられている方もおり、自分の家に住んでいるように家族と連絡を取られている。また、お歳暮やお中元など届いた際など事務所から家族へ電話を入れるようにしている。はがきなどを家族へ書いて出したりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを行っており、季節感を取り入れた空間を作るようにしている。フロアでは音楽を流して心地良く感じるようにしている。光の強さはカーテンなどで調節を行なっている。室内の温度はクーラーにより適度の温度設定にしております。	平成21年7月、リビングの畳の間の一部をフローリングに改修した。間仕切りもあり、職員の会議の場としても活用できているが、ご利用者が一人でくつろげる空間にもなっている。温湿度計も備えてあり、空調や加湿器を活用し、細やかな調節が行われている。それぞれのご利用者に応じて、ソファの座面の高さを調節する等、思い思いの場所で居心地よく過ごして頂けるような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各人が落ち着ける場所を持っており、各々が食事後など休憩するときはその居場所に居られております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前には家族や本人と相談し、使い慣れたものを持ち組んでいただけるように伝えており、出来る限り本人の居心地の良い居室にさせていただくようにしている。ある方は、テレビや冷蔵庫、電話など自宅で過ごしてきたような生活ができるようにされている。位牌を持ってこられていた方も降りましたが現在は家族が見ております。	入居の時に、馴染みの物を持ってこられるよう、あらかじめご利用者やご家族に相談しており、ご家族の写真やご本人の写真、テレビ、冷蔵庫、電話等を持ち込まれている。以前入居されていたご利用者が犬を飼っておられ、ホームでも犬を飼うようになった。職員とご利用者だけでなく、地域の方々にも可愛がって頂いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように居室前には表札を置き皆さん理解しております。ホーム内には至る所には手すりがあり歩行訓練やつかまり立ちが出来るようになっている。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まったり、事業所の理解者や応援者がふえている	ホームとはどのような事を行っている所なのか地域の方々に理解され応援して頂けるよう、地域への声掛けを行ったり、ホームへも招待していきたい	ホーム全体で地域の行事への参加や地域の方々をホームの行事へ招待し、もっとかかわりを持っていく	12 ヶ月
2	36	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なわない言葉かけや対応をしている	ご利用者様の自尊心を損なわないような言葉掛けや対応をスタッフ全員が出来るようにしていきたい	スタッフ全員で何度も話し合いの場を持ち「声掛けのあり方・ご利用者様への思い」を考え「安心して生活が出来る場・安心しておやすみなさい」が言える場を作っていく。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月